

# 社員と企業の健康を考える

ジャーナリスト

海部 隆太郎



## 筆者紹介

海部 隆太郎（かいべ・りょうたろう）

法政大学卒。日本工業新聞社、IT企業の広報部長を経て2009年に独立。企業が抱える幅広い課題を取り扱い、新聞・経済誌などに執筆中。

「40を過ぎたら自分の顔に責任がある」とは、リンカーン元米大統領の有名な言葉だ。何故このような発言をしたのか、背景の説明が必要だと思う。だが、紙幅の関係で割愛するしかない。言えることは人の性格、生き方は顔に出てくる。気に入らない顔（性格）の人物と仕事はできないということらしい。

誠実で穏やかな人、自己中心的な人、修羅の人、臆病な人などの顔は、自然体となった時の顔で読み取れる。もっと多くの人は、それを悟られないよう振る舞うのが常。それでも年齢を重ねるに連れ、シワが増えるかのように性格も顔に刻まれてくるものだ。

毎朝、鏡の前で自分の顔をチェックし、今日も前向きに生きよう、社会に貢献する働きをしようと思うことで、責任ある顔が造れるのではないかと考え、実践しているが、もはや遅いのかもしれない。

むしろ「自分の体形に責任がある」と指摘される方がこたえる。親から健康な体をもらったにもかかわらず、長年の不摂生で健康診断の結果はD判定が続いてきた。奮起して適度な運動と飲食に気を配り、今は健康を取り戻しつつある。

以前はなんだバイキングなどは避け、腹八分を心がけること。これだけでも効果があった。余談だが、バイキングとは帝国ホテルのレストラン名で、1958年（昭和33年）に北欧の料理スタイルを導入してから食べ放題の代名詞として世の中に広まったという。



## ■重視すべきは診断よりも予防

予防医学を専門にする大学の医学部教授を取材した時、「癌検診をいくらしても癌の発生率は低下しない」と聞き、考え方を修正するべきと気づいた。検診は癌を早期に見つけることが目的だから、これだけで癌患者が減ることはない。検診は重要だが、癌にならないよう予防をすることこそ心がけるべきというわけだ。

「ローマは一日にして成らず」であり、責任をもつべき自身の顔も、体の健康も日ごろから意識して取り組むことが何よりも大事。すべて日々の取り組みを積み重ねていくしかない。こんなことは言われなくても分かっている話なのだろうと思うが、ついで老婆心から書いてしまう。

では企業にとっての健康はどうか。日本を代表する大手企業が相次いで経営不振に陥り、紙面を賑わしているのはご承知のとおり。重病を隠し健康を装うなどは言語道断だ。何故こんなことが起きてしまったのか。コンプライアンス順守の欠如しか言えない。

経営者は社員を守り、社会貢献することで企業の存在意義が生まれると思う。企業の健康状態は決算という診断でわかるが、予防はコンプライアンスを守る意識を常に確認することではないか。その実践の有無が経営者の顔に表れてくる。眉を吊り上げてばかりでは、責任ある顔にはなれない。社員は自身の健康に気を配り、会社は社会的価値の向上に意識を向け続けることこそ肝要だと思う。